

味の素グループのプラスチック廃棄物の考え方

資源循環型社会実現への貢献

プラスチック使用量を削減

味の素グループは、これまでも環境に配慮した容器包装の開発・改善に取り組んできました。2017年度には「ほんだし®」のスティック製品の一部を紙容器に切り替え、年間11トンのプラスチック使用量を削減したほか、「ブレンディ®」の容器をコンパクトにして年間25トンのプラスチック使用量を削減しました。

プラスチック廃棄物のゼロ化を目指して

お客様に対して食の安全性を確保するために、プラスチック包装資材は重要な役割を果たしています。一方、プラスチックの海洋廃棄物やマイクロプラスチックの問題は、世界全体で早急に解決すべきものとなっています。

味の素グループは、プラスチック使用量(2018年度は約70千トン)の削減とともに、プラスチックを廃棄物ではなく資源として循環できるような新素材・新技術の開発にも取り組み、2030年度にプラスチック廃棄物のゼロ化を目指しています。

プラスチック廃棄物の削減に向けた取り組み

●プラスチック使用量の削減 (Reduce)

これまでも進めてきた包装資材をはじめとするプラスチック使用物削減のほか、技術開発の進む代替素材の使用も検討

●循環利用可能な条件整備 (Recycle)

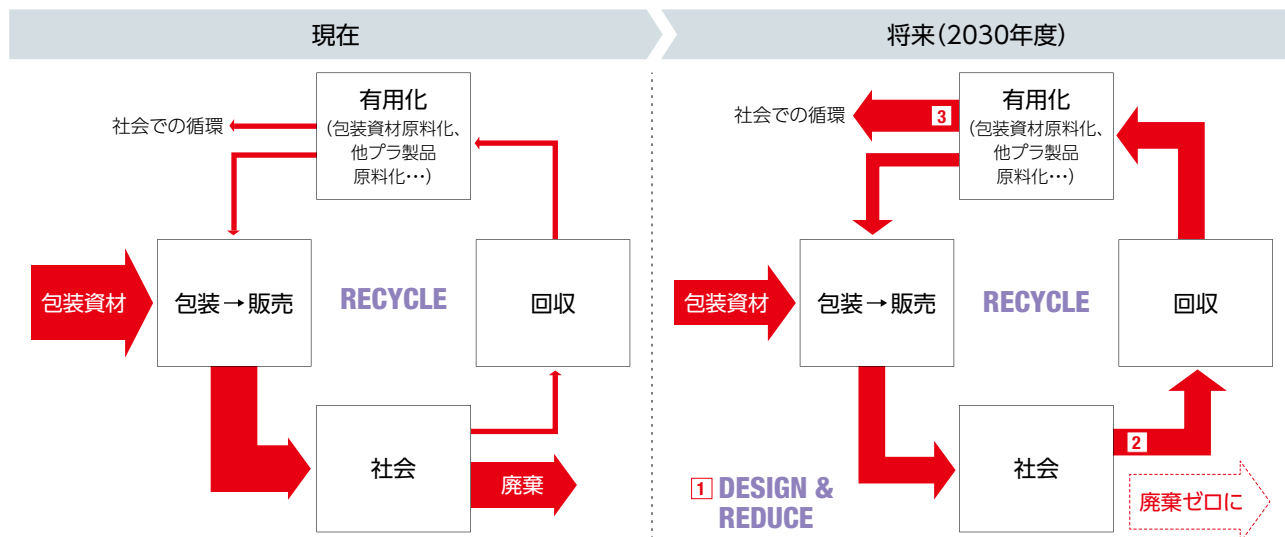
(1)循環利用しやすい包装資材の開発

単一素材プラスチック包装資材の開発、循環可能な代替素材での包装資材開発等

(2)回収-有用化の社会システム確立に向けた貢献

新興国中心に、まだ確立されていない地域での社会システムの確立

2030年度のありたい姿



現在包装資材として使用されているプラスチックは家庭等での使用後、日本等一部の国・地域を除き、大部分はそのまま陸上にあるいは直接海洋に廃棄されています。回収されたものが有用なものにリサイクルされている量はまだ少ない状況です。

2030年度のありたい姿は、社会からの廃棄プラスチックゼロ社会です。その実現に向けては以下のことを実行していきます。

① 使用量をできるだけ減らし、リサイクルする量を少なくする。

② 社会からの回収の仕組みを整える。

③ 回収したプラスチックを社会に有用なものに再生し利用する。

これらは一企業での実行は極めて困難ですが、より多くのステークホルダーと協力して実現を目指します。

* 矢印の太さはプラスチック量を表しています